

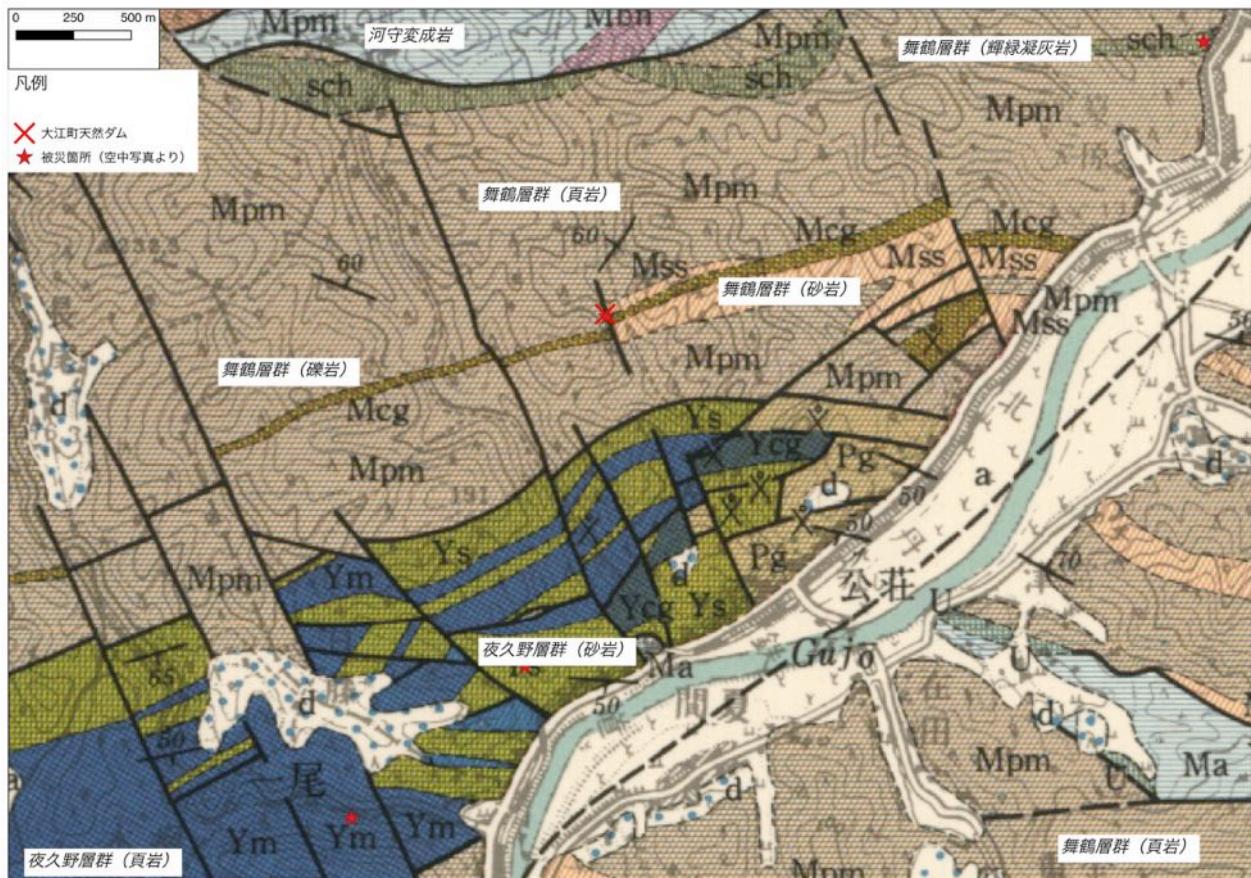
地形・地質学的な観点からみた 西日本豪雨災害 一福知山市大江町天然ダム一

井上直人

(応用地質学会・地盤工学会 会員)



地質調査所 5万分の1地質図「大江山」(1965)





現地調査実施:7月16日 砂防学会、応用地質学会、京都府



応用地質学会 調査団メンバー

地盤研究財団 北田奈緒子
 大阪市立大学 三田村宗樹
 国際航業 小野尚哉
 中央復建 岡島信也
 地盤研究財団 井上直人



■沢沿い基盤岩露頭
 N36W60~70N方向の構造が認められるが、微
 褶曲が著しい。泥質岩が主体で、やや粗粒な泥
 岩・細粒砂岩との互層



■ 上半部は下半部に比べ立木がそのまま移動

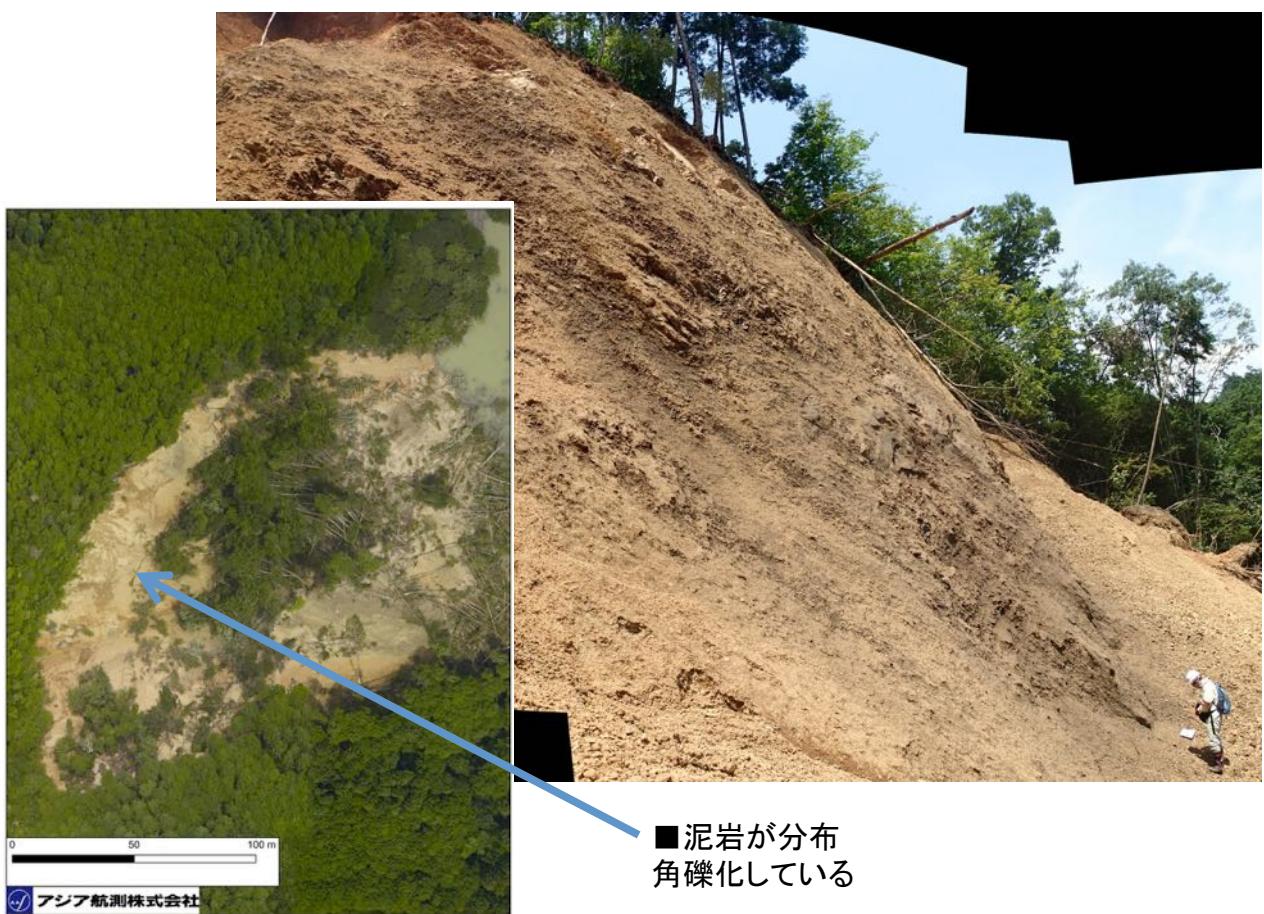


■ 下半部は、上半部に比べ倒木が多く、比較的攪乱



■ 滑落崖全景と、拡大写真

- ・シャープなせん断面を有する滑落崖。
- ・地下水の湧出跡の可能性のある(拡大写真),すべり粘土の剥がれ.





角礫化した泥岩



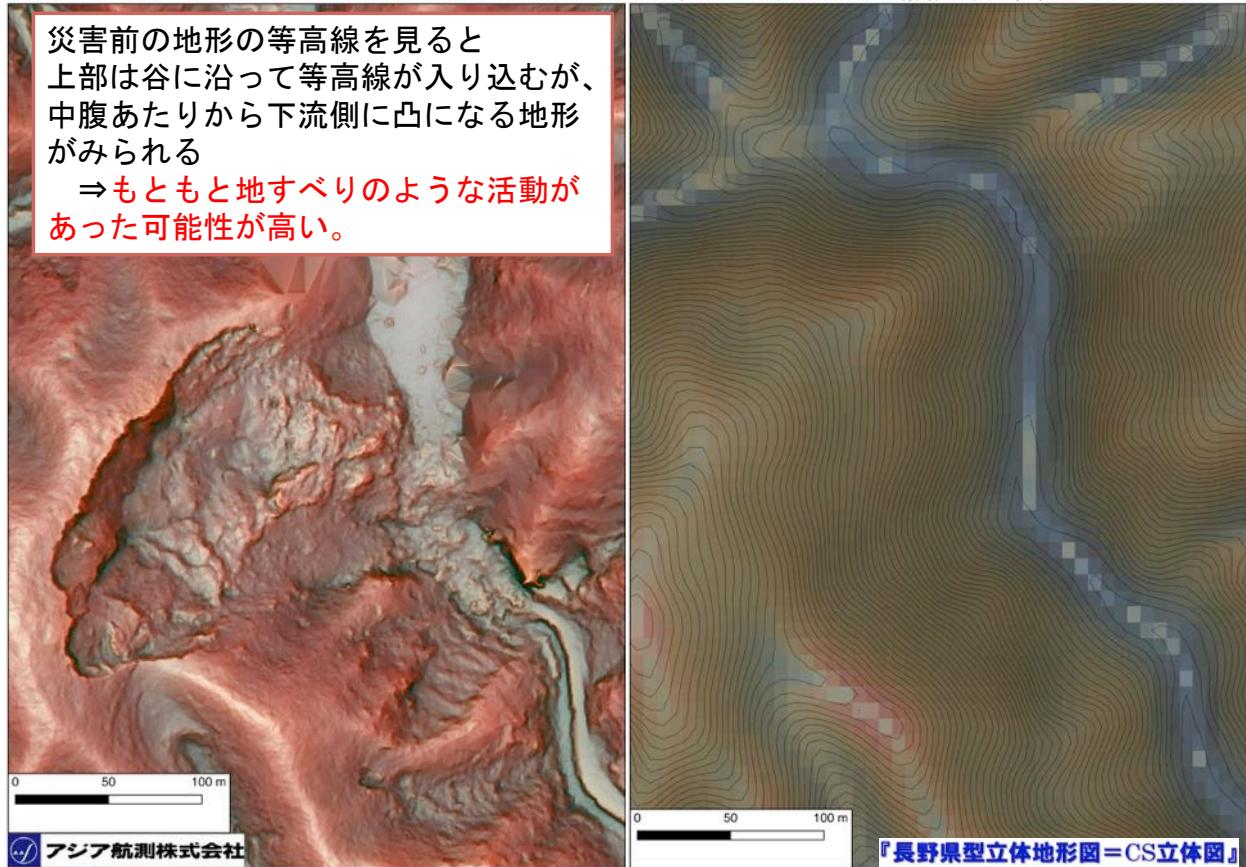
■砂岩
右半分は角礫化し、その間を粘土が充填している。

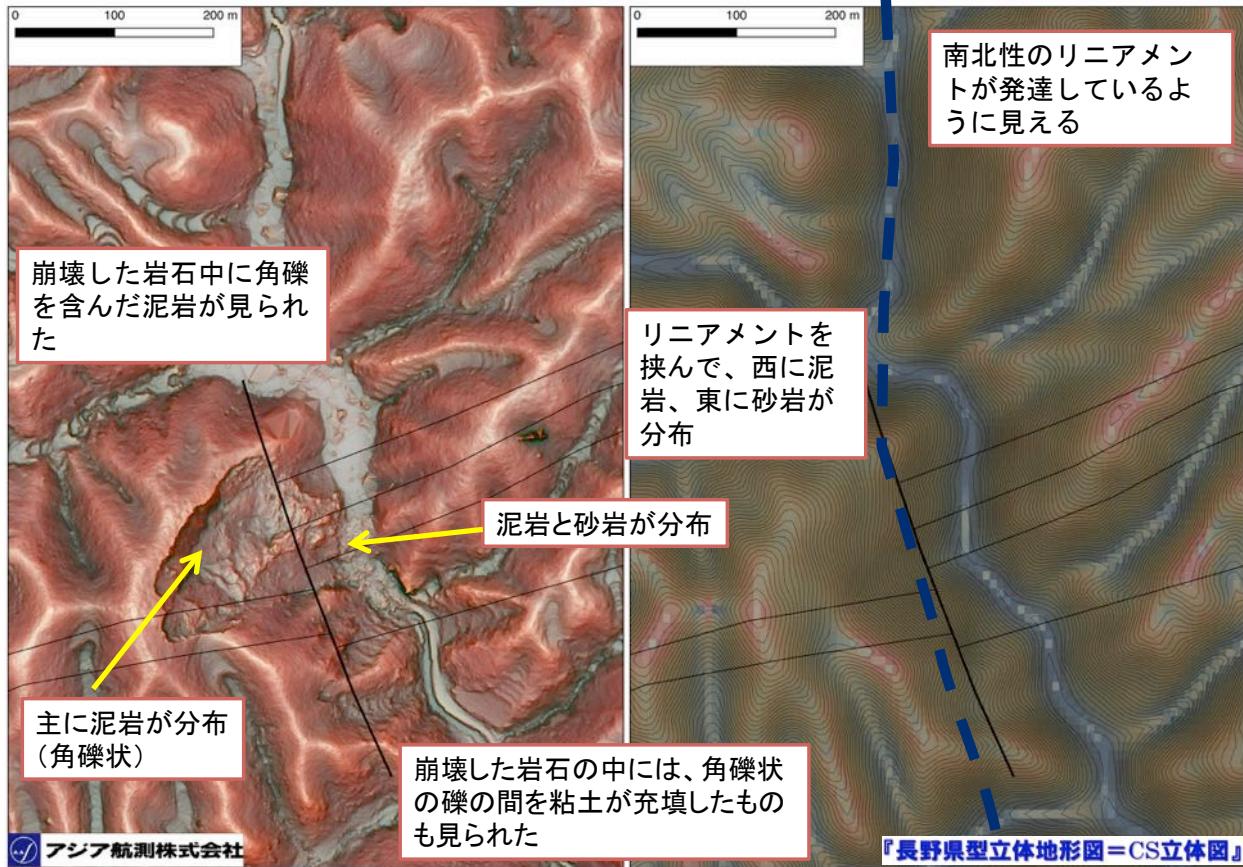


天然ダムの上流側から見た写真



天然ダムの閉塞部下流側から





大江町天然ダム周辺における地形・地質：まとめと課題

地質の観点から

- 舞鶴層群の頁岩主体
- 東西性の地質分布
- 南北性の地質断層・異なる地層の分布

水みちとなり得る地質構造

現地調査において

- 崩壊地では頁岩と砂岩を確認
- 崩壊の頂部では角礫化した泥岩を確認
- 崩壊した岩石の中には、角礫状の礫の間を充填した粘土

脆弱化の進んだ地質

地形の観点から

- 上部は谷に沿って等高線が入り込むが、中腹あたりから下流側に凸になる地形

もともと地すべりのような活動があった可能性を示唆

今後の現地調査結果等を踏まえた考察・地形・地質要因の整理が必要